

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372800997
法人名	上益城農業協同組合
事業所名	グループホーム やまびこ
訪問調査日	平成 20 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4372800997
法人名	上益城農業協同組合
事業所名	グループホーム やまびこ
所在地	〒861-3518 熊本県上益城郡山都町下馬尾288-5 (電 話) 0967-72-2122

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号4F		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】(20年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	9.4 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円		その他の経費(月額)	10, 000円(水道光熱費)
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		2 名		要介護2		1 名
要介護3		1 名		要介護4		3 名
要介護5		2 名		要支援2		0 名
年齢	平均	86.33 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	矢部広域病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中にあるホームは温かみのある外観で、日当たりが良く、季節の飾り付けや観葉植物・古い調度品も置かれ、我が家らしい雰囲気を出している。食事の一部を除き配食サービスを利用することで入居者とゆっくり過ごす時間が増やし、入居者同士や職員との関わりを多く持つようにしている。入居者の思いや出来ることを把握し支援する中で、情報や記録も充実してきている。今後は介護計画への反映や活用支援が期待される。管理者・計画作成担当者・介護職員といった役割や組織体制がしっかりとしており、入居者が安心して生活できる環境が確保されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 災害対策では昼夜別の緊急対応マニュアルを作成し、3カ所に掲示している。マニュアルに沿った訓練も今後予定されている。日々の気づきを記録に残すことは定着しつつあり、これを介護計画に反映させ活用することが今後の課題となる。家族のカンファレンス参加についても、職員の気づきを計画におとし支援する過程で、意見をもらう事によって家族の関与を図るようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員で自己評価に取り組むことで自己のふり返りができ、課題が明確となった。今後の改善に繋がることが期待できる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催し、活動・状況報告を行った後、意見交換をしている。意見やアドバイスをもらったり、協力依頼に対して応えてもらったりしていることが、議事録にも残され整備がされている。入居者や家族にも交代で出席してもらって、交流を深めてもらうようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 昨年の改善項目にあげられた意見箱はすぐに設置したものの投函がなく、年2回の家族会やカンファレンスや面会などの際に、意見や要望を聞く機会を設けている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日頃の挨拶はもとより隣保組みの当番をしたり、災害訓練や一人散歩の際の声掛けの協力をしてもらっている。入居者と共に近くの神社清掃を行ったり、地域の行事への参加を通して、地域との交流や住民相互の付き合いを支援している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたの笑顔と想いを大切にします」という法人理念が管理者や職員に定着しており、設立時に目標とした「住み慣れた地域での生活支援」の実践をグループホーム独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの場面で常に理念を念頭に置き、職員間でも確認し合いながら、入居者の思いを大切にした支援に努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の芸能大会やお祭りなどへ参加したり、隣保組の一員としてごみ当番をしたり、散歩先の広場では清掃活動も行っている。挨拶や声掛けを通して、外出時での近隣住民からの見守り支援も得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組みを行い、計画作成担当者がまとめあげた。自己評価によりケアのふり返りができ、外部評価結果を受けて、見直し・改善等の検討を行う計画である。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの活動や状況を報告し、意見交換をしている。昨年の外部評価結果後には報告すると同時に共に検討もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも情報交換や相談などの協力関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や家族会の際に健康状態や暮らしぶりの報告等を行っている。利用料請求時に預かり金も報告し、ホーム来訪時には台帳で確認を行ってもらっている。入居者の急変時や事故等の際には直ちに報告をしている。「やまびこだより」の発行や遠方の家族へは写真も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年2回の家族会・面会時など折に触れて意見や要望を聞く機会を持ち、話し合いやサービスへの反映につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は最小限にとどめ、異動後の行き来も継続させている。新任職員の馴染みの関係作りには特に配慮し、新任職員からの視点も活性化の機会と捉え活用している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が毎月開催され、職員は交代で参加している。また、外部への講習会・研修会等へも積極的に参加している。	○	職員間での研修内容の共有化のためには、研修の記録や資料の整備・回覧等の仕組み作りが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に参加し、研修や情報交換などを行い、ホームのサービスに反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	こちらから訪問し本人や家族の思いや不安などを受け止めながら信頼関係を構築している。見学や遊びにも来てもらい、グループホームに馴染んでもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意を払いながら、それぞれの「思い」を大切にして、ホーム全体で一つの家族のようにゆったりとした生活を支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや家族をはじめ関係者からの情報提供や、日々の関わりから入居者本人の希望や意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意向の把握に基づいて作成した暫定案を全員で確認し、意見や工夫を出し合った後、介護計画を完成させている。職員の気づきから得られたアイデアを家族に提案し、実践したことで家族からの評価も得ている。	○	介護経過記録や簡易記録・気づきノートなど様々な角度からの情報収集が既になされており、今後は計画作成への反映や支援への活用が期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の定期的見直しと、入居者の状態・状況に応じた随時の見直しにより現状に即した対応ができるよう心がけている。朝の申し送り後のカンファレンスや会議で、日々の状況把握に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援やふるさと訪問など、入居者や家族の要望に柔軟に支援するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医や、入居前からのかかりつけ医との関係を尊重し、家族と共に受診を支援し情報の共有も図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末期の方針については入居時に説明をしている。医療連携体制による健康管理や急変への対応も、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねない支援を心がけており、職員間でも言葉かけや対応に注意しあい確認するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れに基づきながらも、本人の希望や状況に沿った支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の配食サービスを利用しているが、献立の希望には柔軟に対応し、部分的に買物や調理も行っている。食事の支度や片付けは、職員と一緒にしないながら、食事の支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴であるが、体調やその時々希望に沿った入浴支援を行っている。プライバシーへの配慮についても確認あっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ等の役割を受け持ってもらったり、やカラオケ・テレビなどの楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物等の他、本人の希望や季節に合わせた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしておらず、入居者が外出しそうな時は少し離れた所から見守ったり、さりげなく声かけをして、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消火・避難訓練は入居者・職員・地域の人にも声を掛けて行っている。夜間の通報訓練は連絡網の確認にもなり、消防署への通報訓練は全員ができるようにし、連絡マニュアルも目立つところに掲示している。	○	将来的には夜間想定避難訓練の実施も望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが取れた配食サービスを利用しており、ホームでミキサー食にして風味を大切にしている。食事量や水分確保にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りつけは季節感を出し、南向きの居間やソファ・炬燵のある空間でくつろげるようにしてある。リビングから直接出られるベランダには、木や花壇も組み込まれ、洗濯物や布団干しも手軽に行えるよう設備面でも工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者の馴染みの家具が持ち込まれており、枕元に愛読書を並べたり、家族の写真を飾ったりと個性のある居室作りの支援がされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やまびこ
（ユニット名）	1ユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本県上益城郡山都町下馬尾288-5
記入者名 （管理者）	増田 まるみ （計画作成者）
記入日	平成 20 年 11 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしたい。」というその人の想いや笑顔を大切にお手伝い出来るようにと理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケア時、今の利用者の「思いは？」を考えて支援するようにこころがけて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設を知ってもらい、利用者を知ってもらい、ことが出来るように地域の行事には出来るだけ出かけるようにしている。	○ 行事の見学だけでなく、一緒に参加して作り上げて行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常にオープンな雰囲気作りに努め、通りがかりの方にも気軽に挨拶できており、ごみ当番も参加させてもらっている。	○ 隣保組みとの交流は挨拶や行事中心になっているので、何時でも気軽にホーム立ち寄ってもらえるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には見学という形での参加にとどまっている。老人会への参加の声かけ頂いたが、利用者の方の気乗りなく、様子見しているところである。	○ 地域で行われる芸能大会や祭りの見学を通して、なじみの人と交流の機会をもち、意識の改善に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の職場体験や福祉事業体験を受け入れている。	○	独居高齢者等の緊急時の一時避難所としての役割など
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することでケアの振り返りができ、外部評価を受けることで取り組みへのアドバイスにもなり現場に生かすことが出来る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、その間の行事や出来事などの暮らしぶりを報告させてもらい、評価確定が出たら、メンバーの委員さんに報告配付して意見・情報・助言をもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報交換はスムーズに出来ており、問い合わせには親切に対応していただき、市町村ともどもサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解を深めるため研修会への参加の機会を作り、学ぶ機会を作っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、カンファレンスにおいて学ぶ機会はある理解は得られている。ケア時の声かけに対しても、虐待に相当しないかカンファレンスしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については時間を十分にとり説明しているが、日々を経過すると忘れることがあるので、契約の再確認が必要な時もある。	○	家族会などで契約の再確認などを行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の言葉や表情・態度からその思いを察知し、スタッフは共有している。	○	意見や要望はスタッフ全員で考慮して対応している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告は面会時に必ず行なっている。必要あれば電話での対応。預かり金は台帳を作り、利用料請求時送付させてもらっている。確認の印は面会時に頂いている。また、遠方のご家族には写真を送ったりしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。日々の関わりのなかで意見や要望は十分得られている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・スタッフともに質の良いサービスの提供を心がけており、思いは一緒なので、意見や提案は受け入れてより良いサービスの提供に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者が安心して暮らすことが出来るように、状況に応じた対応が出来るように勤務調整は可能である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合	移動により現場を離れることになっても、関わりは継続されるためダメージは少ない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へは積極的に参加している。日々のケアの体験を“学びの場”としている。	○	福祉従業者質の向上研修が毎月行われている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で研修会や情報交換などの交流をおこなって、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から関係作りに努めており、ストレスに対しては出来る限り速やかに対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフが負担感なく働けるように勤務状況など考慮している		
、				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用の相談があったら、必ずご本人に会い、思いや不安を受け止め利用者が安心して利用できるように、信頼関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の方が相談しやすい雰囲気作りにつとめ傾聴する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認して、相談の中で必要なサービスに繋げるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に見学してもらうことから始め、遊びに来てもらったりする事で馴染みの関係を構築して安心してサービスが受けられるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識はもたず同じ屋根の下で共に暮らしている擬似家族という思いでお互いに支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心におき、ご家族と職員が一つになって支えられるよう日頃から信頼関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所によって家族関係が希薄にならないように外出や外泊・行事への参加・季節の更衣など家族へ働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出(お買い物・美容室など)することで馴染みの方とお会いしたり懐かしい場所にいけるの継続的な交流が出来るように地域の外出は今後も積極的に行っていく。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員がクッションになり食事の位置や活動時の位置など雰囲気を考え楽しく過ごせるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ入所された方には、利用者と一緒に訪問したり、入院された方にはお見舞いに行ったりして関わりは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にも掲げているように、日々の関わりのなかでの言動や表情、態度などから思いや希望の把握に努めている。また、ご家族や関係者から情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から利用者がどのような暮らしをされていたか情報を得て尊重した対応を心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「出来ること」に着目し利用者の有する力を伸ばすことが出来るように日々努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりのなかで本人やご家族の、思いや要望をお尋ねし、その人らしく穏やかに安心して楽しく暮らしていけるように介護計画は作成している。	○	単調な計画にならないように、意見やアイデアを出して、本人にとっての暮らしやすさを反映した計画作成に取り組んで行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しをしているが、本人の状態に変化が生じた場合は、現状に即した追加プランですぐに対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化は経過記録や申し送りノートを活用してスタッフ間の情報共有とし、現場のケアにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望には前向きに対応できるよう臨機応変な対応を心がけている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学生の楽器サークルの発表を受け入れたり、防災訓練で消防署員や地域の消防団員の方に協力をお願いしている	○	ボランティアとしての登録はおこなわれているが、今は慰問や清掃活動のみにとどまっているので今後は外出支援であつたりとアプローチの工夫をして行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスが必要な時は担当のケアマネジャーや担当者と話し合い、本人にとっての最善策の支援につとめている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に必ず包括支援センターより出席してもらっており、情報交換や協力関係を築いている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望されるかかりつけ医になっている。受診は職員が代行することが多いが、状況に応じて家族にも協力を依頼している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診が必要な方には紹介している。受診時はホームでの生活の様子などの情報の提供を行っており、主治医から助言やアドバイスを頂いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に注意を払っている。協力医療機関とも連携が保たれ、相談時アドバイスを頂いたりしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報提供を行って、利用者が安心して暮らしていけるように支援している。常に情報交換したり、相談したりと病院関係者との連携はとれている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入所時に確認しており、施設としての方針も説明させてもらっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の気持ちを大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるように取り組んでいる。施設として、出来ること、出来ないことはご家族に理解して頂いており、急変に備えてはかかりつけ医で対応できるように連携をとらせていただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしが継続できるように情報提供している。また、職員は訪問などの機会を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊厳を損なはないように、否定的な言葉かけや態度の表出には十分気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた声かけを行い、自己決定ができるように取り組んでいる。意思表示が困難な方では、表情や行動での観察をおこなっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあり、一人一人の状況や思いに沿った支援に心がけているが、ややもすると押し付けのケアになっていることがある	○ 機会あるごとにスタッフの意識付けの確認が必要である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	元気な方は馴染みの美容室にでかけ、カットや毛染めをおねがいしている。車椅子の方は訪問カットをお願いしている。同じカットにならないようにお願いして個性を大事にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を発揮していただける「場」として出番作りを心がけている。食事はスタッフと利用者が同じテーブルで楽しく摂取できるように雰囲気作りも心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは用意していないが、お茶や麦茶は何時でも飲めるようにしている。おやつは、一人一人の状態に合わせて刻みやミキサーでも提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、誘導している。安易に紙おむつに頼らずトイレでの排泄ケアに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日ごとの入浴になっているが、希望あれば何時でも入れるようにしている。また介助の場合は裸への羞恥心がないようにタオルなどを用いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動に努め、生活のリズムを整えるようにしている。また、午睡や休息もその方のペースで行ってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意なぶんやでの力が発揮でき、満足感や達成感が得られるような暮らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物や外出時の購入代は、ご家族よりの預かり金を渡して自分で払っていただいている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じることは大切な事と思うので、散歩や買い物以外にも外出行事を積極的に取り組んで季節の移り変わりを肌で感じてもらうようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	普段の会話から行ってみたいところなどをお尋ねして、年に1回の1泊旅行の実施。また、ご家族と協力してふさと訪問		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や書中お見舞いにとどまっている。電話に出る事はあっても、自分からかけたりすることは特にない	○	ご家族の声を聞く”元気コール”の実施
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方が気軽に来れる雰囲気作りに心がけている。希望あれば泊まっていただくこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は行なわない。また拘束の対象になると思われる時は、すぐに改善工夫している。スタッフも理解できている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けず、出入り自由である。外に出られる時はさりげなく声かけたり一緒に出かけたりして安全面の配慮と自由な暮らしを支えるようにしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じフロアで記録を行い、さり気なく見守りしている。夜間は物音あれば随時訪室したり巡視時間以外でも安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみやつめ切りなど使える方には自由に使えるようにしている。ただ、包丁や皮むき器などはスタッフ見守りのなかで出来る方だけの使用としている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスで一人一人の注意点をあげ事故防止に努めている。事故発生時は事故報告書を提出する。	○	なぜ事故が起きてしまったかを検討するインシデントノートを作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生にそなえての対応のマニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。危険性のある方については、日々のケア時、方法などを指導している。	○	急変や事故時の連絡・対応の訓練を定期的に行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消火・避難訓練に地域の方も参加して頂いている。夜間帯の訓練はスタッフの通報から到着までの所要時間の訓練にとどまっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクに対しては同意を頂いているが、危険のないよう安全面に配慮して、出来る限り自由な行動が出来るように見守っている	○	最も起こりうる危険性のある転倒・転落についてはアセスメントシートを活用してご家族に理解・同意をいただいている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違う様子があれば、報告、病院受診するようにしている。異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は分包化してもらっているので、内服時の氏名の確認から服薬の確認まではすべてのスタッフは出来ているが、目的や副作用についての理解は特定のスタッフのみである	○	内服の目的や副作用について学び理解する事ができる
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージや早朝牛乳などで排便を試みているが、それでもない時は病院からの指示薬を用い、排便コントロールを行っている。排便チェック表をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	毎食後の歯磨きは習慣になっており、スタッフの声かけや介助にて全員実行できている。就寝時、義歯はポリデント洗浄をおこなっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態によって摂取量や形態は変わっているが、バランスよく食べていただけるよう取り組んでいる		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	流行期にはマスクの着用や手指の消毒をして、入室いただけるように玄関にお願い文を掲示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を新鮮なうちに使い切るようにしている。また、冷蔵庫の整理はカレンダーに印をつけて定期的に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は植木鉢やお花のプランターで、ホールには古いタンスや大きな古時計を置いて懐かしく親しみのある”家”の雰囲気工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面やカウンターを利用して季節の花やちぎり絵、野菜などを飾り季節感を味わっていただけるように工夫している。特定の人ではあるが、息子さんからのお手紙や写真をご自分の椅子の横に貼り何時でも見ていただけるようにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必然的に気のあった者同士の位置関係になっており、見守りしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りご本人が使用されていたなじみの物を持ち込んでいただき、安心して居心地よく過ごせるようにしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度の調整はこまめに行っている。特に居室の換気、温度調整には配慮している。またトイレの後の気になる臭いには消臭剤を用い速やかな消臭に努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりやお風呂場・トイレの握り棒など安全面に配慮した作りになっている。手すりを利用して立位訓練したり工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフは利用者の「出来る力」に着目して、日々の生活でどう生かすか工夫をしながら支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇はお花や野菜を植えて収穫の楽しみを味わってもらい、ベランダは洗濯物を干したりお布団を干したり、野菜の選別をしたりと利用者の活躍の場となっている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・スタッフというかわりだけでなく、自分の家族をここになら安心して任せられるとスタッフ自身が思える施設作りに取り組んでいます。お互いに助けたり・助けられたりしながら、穏やかにゆっくりと安心して過ごしておられます。スタッフは大家族という意識のもと「ただいま～」と朝出勤し、夕方は「いってきまーす。」と帰っていきます。ホームは日当たりがよくベランダは、洗濯物干したり・お布団を干したり野菜の選別をしたりと利用者の方が最高に「力」を発揮される場所になっています。ヒマワリやタンポポをイメージに黄色を主体に建てられており、明るく・根強く・いつも笑い声の絶えない「わ・が・家・」です。